

## 今治市（自転車のまちづくりについて）平成30年1月29日

### 1 目的

近年自転車の聖地として、国内外の人気を集めている取り組み内容について学ぶ。

### 2 内容

17年1月12市町村と合併、人口168,000人の都市。議員数32名、造船とタオルに代表される産業の街である。

平成11年開通のしまなみ海道（西瀬戸自動車道）は今治市と尾道市を結ぶ自動車専用道路であるが点在する島々を繋いでいるため生活道路の位置づけもあり自転車道も併設されている。

このしまなみ海道はサイクリストに人気が高く、楽天トラベルサイクリングの部で二年連続第一位を獲得している。八つの島を九つの橋で繋いでいるが、新尾道大橋だけ自転車道が無く船で渡っている。（推奨ルート約70km）

平成19年瀬戸内しまなみ海道振興協議会を設立（二つの観光振興協議会を統合）レンタルサイクルの尾道側との相互乗り捨て締結

22年愛媛県知事が代わり新たに就任した中村知事がスポーツサイクルを唱え愛媛県から「自転車新文化」を根付かせていくとして、世界に売り出すことに注力、台湾ジャイアント社と提携、県の後押しがあり今治市内にストアが開店、市長も自ら自転車を利用。

行政のトップと企業のトップがしまなみ海道を自転車で走ったことで、県民・市民のなかに自転車が浸透していった。

今治市独自の施策よりも県と連携した施策が多く、「自転車の安全利用条例を設け、国際サイクリング大会、愛媛マルゴト自転車道構想」の重点施策の元に自転車利用拡大、おもてなし態勢、安全利用、シェアザロードの普及を行い、四国をサイクリングアイランドにしようとしている、自転車は単なる移動手段でなく、健康・生きがい・友情をつくることとして、交流人口の拡大に繋がりたいとしている

「日台交流 瀬戸内しまなみ海道サイクリング」走行265km参加者160名

「姉妹自転車道協定」台湾自転車道との協定

「国際サイクリング大会」高速道を止めて実施」。25年プレ大会には2,560名、

26年本大会には、7,281名、28年の中規模大会には3,539名の参加者があつた。

高速道を封鎖して行ったことから、様々な問題が発生。高速道の減収保証や経費の面で二年に一回の開催にしている。30年度に大規模大会を控えている。

しまなみ海道はレンタサイクルが今治、尾道の双方に800台ほどあって、相互乗り捨てができる。年間32万人が来訪、イベント日を除くと、一日平均は800人ほどになる。

健脚な人は4時間ほどで往復してしまうが途中の島々を楽しんでほしい。サイクリング推奨ルートをブルーラインで示し、狭い部分の拡幅など、安心して走れるよう配慮。

自転車修理や空気入れ、サイクルスタンド設置、自転車と宿泊できる施設、などサイクルオアシスをコンビニも含めて各所に整備、町ぐるみで受け入れている。

「思いやり1,5m」自転車と並走するときは1,5m間隔を取ろうと運動しているその他、おもてなしとなる様々の取り組みを行っていて、手ぶらで自転車に乗ることができるし、サイクルトレインを利用できる期間もある。

多言語対応、松山空港での自転車梱包容器保存、

平成28年「愛媛県自転車新文化推進協会」を設立  
会長に愛媛県知事が就任し、オール愛媛体制の構築。  
愛媛サイクリングの日などによる普及活動・誘客促進・国際大会への支援・安全利用促進などを事業内容としている。

いろんなメディアで紹介されていて、まだまだ来訪は増えそうである。

29年スポーツ文化ツーリズムアワード大賞を受賞。

今治市内の自転車通行帯の整備が気になりました。  
市内では、広い歩道に自転車通行帯を設けているが、その延長はさほど長くなく、道路整備の行われた場所に限られていて自転車駐車場も駅前の一か所だそうです。

アルプスを眺めながら自転車道を走る構想は止まったままで、あれはどうなったのだろう。首長の姿勢と広域な取り組みをしないと成功しないと感じた。